

# 陶芸・絵画教室



芳川の里、いしはらの里で生活されている方々、デイサービスやショートステイをご利用されている方々に人気の、陶芸・絵画教室をご利用ですか？

陶芸教室・絵画教室で講師をされている**工藤泰夫さん**は、芳川の里の創立当初から宿直業務に携わり、現在はその後で、陶芸教室・絵画教室の講師をしていています。

今回は、この教室を開催することになった経緯をきいてみました。

介護保険法が施行される以前は、今よりずっと開放的で、宿直業務の傍ら、玄関横のスペースでご利用者・ご家族たちと、麻雀や囲碁や将棋を楽しんだと当時を懐かしむように話されています。

あるご利用者に家では何をやっているかと尋ねられ、絵の教室をやっていると答えたところ「ここでも絵の教室をやったよ！」と頼まれました。

現在では2階の介護者教育室で、芳川・いしはらの入居者、デイ・ショート

利用者と大勢の方が参加されています。



絵画教室に参加されている方々と楽しそうに会話をしながら、講師をされている**工藤さん**。

「先生、この色どうやって出せるの？」

「この色は何色にしたらいい？」

呼ばれるたびに、あっちの机こっちの机と飛び回ります。

そんな**工藤先生**の絵画教室では、絵筆を使いませぬ。絵画教室なのに筆は使わない！…？何で絵を描くの…？

**正解は、筆ではなく割りばしです!!**

**工藤先生**曰く、筆で描くと塗り直しができず、色を重ねるほどくすんできて、手直しが効かなくなるそうです。一方、

生活になじみのある割りばしで塗っていくと、重ね塗りもでき、驚くほど鮮やかに仕上がります。また、割りばしを使い細かく手を動かすことで、脳への刺激にも繋がります。絵を描いたことがある人は、割りばしで塗っていくことに驚く人もいるそうですが、2回3回と参加するうちにすぐに慣れ、創作活動に集中できるようです。

徐々にできなくなったことを自覚して、参加しなくなった利用者があると辛くなるそうですが、「参加者が、描き上げた喜びを感じてくれれば嬉しい。」とも話してくださいました。



絵画教室に参加される方々に寄り添い、それぞれに合ったやり方で対応している**工藤先生**。皆さんの作品が所狭しと飾られる文化祭が今から楽しみですね。

入所課 西村志乃

